

全神戸軟式少年野球連盟大会規定

[2023/04/22 改正]

1. 大会運営

開会式、閉会式、及び試合運営は、大会運営委員長の指示により、常任理事、各実行委員、各審判員がその役割を分担し、運営する。

(1) 担当球場で行われる試合及び、記録の集計と報告。

(2) 日程変更及び、中止の連絡

- ・ 事前に各リーグ事務局から、中止・変更等の連絡がない場合は、試合が行われると考え、必ず球場に集合する。
- ・ 尚、中止・変更等の連絡は、試合開始約1時間前に決定し、当該チームに連絡する。

2. 大会役員

(1) 本大会の役員は、全神戸軟式少年野球連盟規約第12条の役員及び、大会運営委員長、実行委員で構成する。

(大会運営委員長)

- ・ 大会運営委員長は、各リーグ会長が別表第1のと通りの順番で担当する。

(実行委員)

- ・ 実行委員は、本連盟が主催する開閉会式の円滑なる運行を遂行する。
- ・ 実行委員は、加盟各リーグより数名選出し、その構成は別表第2のとおりとする。

(審判員)

- ・ 審判員は、本連盟が主催する各試合の円滑なる運行を遂行する。
- ・ 審判部員は、各リーグより数名選出し常任理事会へ報告する。
その構成は、別表第3のとおりとする。

3. 大会参加と選手登録

(1) 大会に参加できるチームは、連盟規約第3条の目的により活動し、同第9条の資格を有し、同第7条により所定の手続きをもって登録を完了した選手で構成されたチームとする。

(2) 登録選手は、連盟規約第9条の条件を満たした者とする。

選手の背番号は、主将は10番とし、28番～30番を除き0番～99番とする。指導者の背番号は28番～30番までとし、監督は30番とする。

(3) 選手登録用紙には必ず「学校行事等の日程」「主将にはフリガナ」を記入すること。

- ・ 組み合わせ抽選終了後、「学校行事等の日程」の追加・変更は原則として認めない。

(4) 選手の追加登録・変更は規約の第7条3項に準ずる。

(5) 大会抽選会において、欠席・遅刻の場合は事前に大会事務局へ報告する事。

(6) 参加チームは、開閉会式で、全神戸チーム旗、チームプラカードを持参し、大会期間中は必ず、選手登録書を持参しなければならない。

4. 大会参加費

- ・ 大会に必要な経費は、参加チームの参加金で補う。所定の参加金は抽選会会場で納入する。金額について

は、常任理事会で決定する

5. 試合要領

(1) ルール

- ・ 全神戸軟式少年野球連盟大会規定及び公認野球規則を準用する。

(2) 球場概要

- ・ 球場は両翼55m以上が望ましい。ただし、大会使用球場の事情により、大会役員で特別ルールを定め使用する。

(3) バッテリー間・塁間距離

- ・ バッテリー間は16m、塁間は23mとする。

(4) 使用球

- ・ 本連盟が指定するマルエスJ号ボールとし、試合毎に新球2個を提出する。

(5) 投手の準備投球

- ・ 投手の準備投球数は、登板初回は7球以内、次回から3球以内とする。
ただし、正規の捕手の準備が整うまでの間の投球数はこの限りでない。また、審判員は正規の捕手に対し迅速な準備を促すことを怠ってはならない。
- ・ 他の守備位置について選手が再度登板する場合の準備投球数は、その時の状況に応じて球審が判断する。

(6) 捕手の条件

- ・ 捕手はベンチを出るときからキャッチャー道具をつけていること。
(代理捕手はマスクを付けていない場合は、座って捕球できない。)

(7) 試合イニング数および時間

- ・ 試合は6回戦とし、1時間30分を超えて新しいイニングには入らない。
- ・ 試合終了時同点の場合は、タイブレーク方式を採用する。
- ・ タイブレーク方式は、ノーアウト満塁で継続打者より攻撃を行い、前打者3名が順次塁を埋める。

(8) コールドゲーム

- ・ 降雨、日没などにより試合を継続できないと審判員が判断した場合、4回表裏を完了した後であればコールドゲームを適用し正式試合とする。
- ・ 4回表裏を完了していない場合は、ノーゲームとし再試合を行う。ただし、4回表を終わった際、または4回裏の途中で後攻チームの得点が多いときは正式試合とする。
- ・ コールドゲームを適用した場合、その試合の総得点および勝敗は公認野球規則に準じて決するものとする。
- ・ 得点差によるコールドゲームは、得点の少ないチームの4回攻撃終了時以降10点差、5回攻撃終了時以降7点差をもって成立させる。
ただし、準決勝、決勝戦については、得点差によるコールドゲームは適用しないが、降雨、日没などによるコールドゲームは適用する。

(9) ロジンバッグの使用

- ・ ロジンバッグは、投手板の後方に置く。ロジンバッグにボールが触れてもインプレイとする。

- ・雨天の場合または競技場が湿っている場合、審判員は投手にロジンバッグをズボンのポケットに入れるよう指示する。

(交代時、投手はロジンバッグをベンチに持ち帰ること。)

- ・攻撃終了後、ネクストバッターサークルに置かないこと。

(10) 防具の使用

- ・選手の安全確保のため、打者、走者、ベースコーチは、両耳付きヘルメットを常時着用すること。
- ・捕手は、プロテクター・レガース・ヘルメット・マスク（スロートガード付きが望ましい）・ファールキャッチャーを着用すること。ただし、ヘルメットとマスクが一体型の物は使用を禁止する。

(11) ユニホーム・シューズ

- ・原則として、チームで統一したユニホームを着用し、背番号を付ける。
(規約の第8条で承認された合同チームを除く)
- ・スパイクシューズは、球場により使用を認めない場合がある。

(12) バット

- ・軟式用バットでJ S B B認定のバットを使用する。
- ・木製バットは、公認野球規則に基づく形状、太さ、長さ、および握り部分の細工規定に準拠したものであれば使用を認める。

(13) 集合時間

- ・監督（代理監督）は、主将（代理主将）を伴い、試合開始予定時刻の30分前までに集合完了を球場本部へ届出し、選手登録書、打順表3通、使用球2個を提出する。
(代理監督は、連盟指定の目印を付けることとする。)
- ・試合開始時刻になっても集合しないチーム、指導者のいないチーム、選手9名が揃わないチームは棄権とみなし、相手チームの不戦勝とする。

(14) 先攻・後攻の決め方

- ・主将のジャンケンで決める。

(15) タイム

- ・1回のタイムは30秒間を目安とする。ただし、審判員がこれを認めた場合はこの限りでない。なお、試合進行上、不必要と思われるタイムは認めない場合がある。
- ・1試合のタイム回数は、下表のとおりとする。

守備時（監督・選手の合計）	3回
攻撃時	3回
延長各回（守備・攻撃各々）	1回

- ・選手が3人以上集まった場合は、タイム1回をカウントする。
- ・守備側（または攻撃側）がタイムをかけている際に、攻撃側（または守備側）監督等が選手を呼び指示を行った場合は、攻撃側（または守備側）も回数をカウントする。
- ・選手の負傷等により審判が必要と認め中断している間に、攻撃側あるいは守備側選手を監督等が呼び集めることは回数カウントしない。
- ・タイム回数は、球審が回数カウントするかを判断し、本部控審判に伝達し、本部控審判が掌握する。
- ・本規定の回数を上回るタイムの要求は退ける。同様に選手が集まろうとした場合、審判員は直ちに守備位

置に着くよう促す。

(16) ベンチ・ベンチ入り人数

- ・ ベンチは組み合わせ番号の若番が1塁側とする。
- ・ 指導者は、監督、スコアラーを含め6名までとする。
- ・ 選手および指導者は、登録されている者のみがベンチ入りできる。

(17) シートノック

- ・ 試合前のシートノックは5分間とするが、大会運営上短縮、またはなしとする事がある。
- ・ 試合前のシートノッカー・ノッカー補助（外野のみ）は3名までとする。
（但し、フェアグラウンドには入れない。）

(18) かくし球

- ・ かくし球は認めない。
- ・ かくし球により走者がアウトとなった場合、そのプレイを無効とする。

(19) 変化球

- ・ 変化球は認めない。
- ・ 変化球とは、球審により変化球と判断された投球をいい、変化球に対してイリーガルピッチ（反則投球）として「ボール」を宣告する。
- ・ 変化球が投げられたときにプレイが続けられ、打者が1塁に到達するまでにアウトになるか、各走者が次塁に達するまでにアウトとなった場合は、そのプレイを無効とし打者のカウントに「ボール」を加える。
なお、この場合、攻撃側監督の申し出によりプレイを有効とすることができる。

(20) 投手の禁止事項例外

- ・ 雨天時やグラウンドコンディション不良によりボールに付着した雨水や土等を拭う必要がある場合、ボールをグラブ、身体、着衣で摩擦することを認める。

(21) 審判

- ・ 審判は相互審判とし、球審は全神戸審判部が担当する。
- ・ 若番、勝者チームは、2塁の審判と本部控審判（審判服にて待機）
- ・ 審判員は、担当試合30分前までに本部前に集合し打合せること。
- ・ 後審判員は、自チームの試合終了後速やかに本部へ集合し打合せること。

	①第1試合	②第2試合	③第3試合	④第4試合	⑤第5試合
3試合	③のチーム	①のチーム	②のチーム		
4試合	②のチーム	①のチーム	④のチーム	③のチーム	
5試合	③のチーム	①のチーム	②のチーム	⑤のチーム	④のチーム

- ・ 審判の服装は、上は紺色半袖ポロシャツを着用し、アンダーシャツを着用する場合は同系紺色のみ認める。
下は紺または黒灰系単色のスラックス（長ズボン）、帽子は審判帽子を着用すること。（全神戸審判部上着は連盟指定の服装による。）
- ・ 準々決勝・準決勝・決勝戦は、球審・塁審ともに全神戸審判員が行う。

(22) 選手の試合中の負傷

- ・ 守備側チームの選手が負傷した場合は、3分を目安として治療を認め、それ以上は交代を促す。
- ・ 試合中、攻撃側選手に不慮の事故などが起き、治療のために中断が長引くと審判員が判断した場合および

打者が頭部付近へ死球を受けた場合は、臨時代走者を適用することができる。

- ・ 臨時代走者は、試合に出場している選手に限られ、打者が負傷した場合、投手を除いた選手のうち打撃を完了した直後の者とし、塁上の走者が負傷した場合、その時の打者を除く打撃を完了した直後の者とする。
- ・ 臨時代走者は、アウトになるか、得点するか、またはイニングが終了するまで継続する。
- ・ 臨時代走者に代走を起用することはできるが、この場合、負傷した選手の正規の交代となり以後出場できない。

(23) 熱中症の予防措置

- ・ 熱中症警戒レベルの気象条件下において、1回の守備時間が長引く場合、審判員の判断により給水タイムを設けることができる。
- ・ 給水タイムは、概ね5分とし試合時間から除く。
- ・ 本部控審判員または本部担当役員は、1回の守備時間が20分を超過するような場合、球審にその旨を伝達する。

6. 試合運行

(1) 指導者の服装

- ・ 監督はユニホームを着用すること。
- ・ 監督以外の指導者は、スコアラーを含みユニホームまたはチームで統一された服を着用すること。(下記例のとおり)
- ・ サングラス使用は、本部の承認を得ること。(華美なものは避け、医療用、疾病予防として必要な場合に限る)
- ・ 携帯電話は、ベンチ内持ち込みは禁止する。(通信機器を含む)
- ・ 審判の服装でのベンチ入りは認めない。

例) ズボン=紺または黒灰系単色とし、裾の絞ったズボン・外付けポケットズボンは認めない。

上 着=華美でないデザインのポロシャツまたはTシャツとし、裾はズボンの中に入れる。野球用のジャンパーの着用は認める。

(2) 監督(代理監督)がベンチを出られる時

- ・ 選手交代通告時
選手交代はベンチ前で球審に通告するが、一度に3名以上の選手交代をする時は、任意の用紙に記入し通告する。
- ・ 選手に指示を与える時
守備側の選手に指示を与える時は、ファールライン付近まで出て指示を与え、打者への指示は、本塁とベンチとの中程で指示を与えること。
- ・ 指導者が喫煙のためベンチを離れると、その試合中再びベンチに入る事は出来ない。

(3) ルール確認権

- ・ ストライク・ボール・アウト・セーフの判定に対する確認は認めない。
- ・ ルール上の確認権を有する者は、監督(代理監督)とし、他の指導者の確認は一切認めない。
- ・ 確認を行う時は、タイムをかけた後、審判の許可を得てからベンチを出ること。

(4) 選手の管理

- ・ 本連盟の主催する大会において、各チームの選手管理・監督は、各チームが責任を持ってあたること。
- ・ 万一、不測の事故が発生した場合、連盟は、応急措置はとるも以降の治療、補償はしない。

(5) 物品の破損

- ・ 本連盟の主催する大会において、試合中に球場周辺の物品に損害を与えた場合、大会役員と当該チーム代表者が弁済交渉にあたること。

(6) その他

- ① 攻守交代は、監督責任で全力疾走させること。
- ② ファールボールは、ベンチ側が処理にあたること。
- ③ 審判員に対する「お茶」の提供は、試合開始前に本部および審判員で調整する。
- ④ 試合前のシートノック終了後のグラウンド整備、ライン引きは、両チーム指導者で行う。試合終了時は、両チームの指導者でグラウンド整備を行う。
(原則として各チーム2名以上)
- ⑤ 選手の肘・肩の障害予防として、一人の投手が1日に投球できる数は、70球以内とする。
投球数管理運用は以下の通りとする。

- ・ 試合中規定投球数に達した場合、その打者が打撃を完了するまで投球できる。
- ・ タイブレークになった場合、1日の規定投球数以内で投球できる。
- ・ ボークにもかかわらず投球したものは、投球数に数える。
- ・ 牽制球や送球とみなされるものは、投球数としない。
- ・ 投球数の管理は、大会本部（控審判）が行う。

7. 禁止事項

- (1) ハンドマイク・メガホン・通信機器の使用は禁止する。
- (2) 選手・審判員に対する個人攻撃は厳禁する。
- (3) 投手が投球姿勢に入った際には、ベンチから（選手、指導者を問わずグラウンド内および隣接する応援エリアを含む）投球を妨げるような声援は禁止する。
- (4) 応援者による選手・審判員に対するヤジ・非難等が発生した場合は、当該チームの責任者において、直ちに注意、止めさせること。
- (5) 本塁打を打った打者の派手なガッツポーズや当該打者をベンチ外に出て迎える行為を禁止する。
- (6) 試合中、次打者のダートサークル付近での素振りを除き、グラウンド内でのバットの素振りを禁止する。試合準備中のベンチ前での素振りも控えること。
- (7) 試合前ベンチ入り後、グラウンド内での打撃練習を禁止する。

8. 罰則規定

- (1) 参加チームが、次の各号のいずれかに該当するときは、試合参加は認めるも、監督は大会期間中ベンチ入り出来ず、本部席に待機させる。ルール確認権は一切認めない。
 - ① 大会抽選会において、事前に連絡無き場合の欠席・遅刻。
 - ② 開会式当日に、プラカード及び、全神戸チーム旗を持参しなかった場合。
 - ③ 試合当日、選手登録書を忘れた場合。

- ④ 集合時間に遅刻した場合。
- ⑤ 当該審判員が集合時間に遅刻、不履行の場合。

(担当審判員が所属しているチームに対し)

(2) 参加チームが、次の各号のいずれかに該当するときは、常任理事会で協議し、その処分を決定する。

- ① 登録されていない指導者・選手を出場させた場合。
- ② 本大会期間中に本連盟及び各リーグが認めていない団体連盟の主催する大会に参加させ本大会に支障を与えたチームと部長。
- ③ 試合中に試合を放棄したチームの指導者とそのチーム。
- ④ その他、大会規定に違反、抵触した場合及び著しく大会運営を阻害したと認められるチームの指導者とそのチーム。

上記以外で規定に定められていない事項については、常任理事会を開催して、当該者を交えて事情を聴取し、その処分を決定する。

別表第1 (大会運営委員長関係)

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年
選抜	北	東	西須	甲	北	東	西須
選手権	西須	甲	北	東	西須	甲	北

2028年度以降上記順番を繰り返しこれに当たる。

別表第2 (実行委員数関係)

東リーグ 10名	西須リーグ 10名	北リーグ 10名	甲北リーグ 5名
----------	-----------	----------	----------

実行委員数は原則であり特別な理由で増減する場合がある。

別表第3 (審判員数関係)

東リーグ 10名	西須リーグ 10名	北リーグ 10名	甲北リーグ 5名
----------	-----------	----------	----------

審判員数は原則であり特別な理由で増減する場合がある。